

GRAND CYCLE TOKYO 実行委員会 第2回事業最適化部会
議事要旨

日時：令和7年6月25日（水） 16時00分～17時00分

場所：都庁第一本庁舎 15階 15F 会議室及びオンライン

1. 開会

2. 審議事項

（1）第1回部会における委員からの意見と今後の方向性案について

- 第1回事業最適化部会でいただいた意見を踏まえ、今後の方向性案を下記のとおり整理した。

【検討の方向性案】

- ポイント①：開催のあり方、都民支持について
 - 両大会の相乗効果の観点から、周回コースの設定や両大会の連日開催の可能性を検討
 - 地元への負担が少なく、多くの参加者が楽しめる自転車イベントの展開
 - 多摩でのロードレース開催は、大会後に実施する関係者ヒアリング等を加味して検討
- ポイント②：収入増・新たな価値創造について
 - レインボーライドを主体としたブランディングの推進
 - 両大会の開催手法の工夫や開催エリアの融合を検討
 - 海外連携の推進によるブランド価値向上の好循環の可能性
- ポイント③：費用対効果について
 - 両大会を集約することによる運営方法・費用の効率化を検討
 - 周回コースの活用やコースの固定化による費用削減を検討
 - 安全対策費については、安全面を第一に考えたうえで引き続き経費を精査
- 事務局でまとめた方向性案について、各委員からご意見いただきたい

【委員からの意見】

- 1つ目、開催のあり方、都民支持について
 - 7月の昼の時間帯に開催する場合は、選手や観客等への暑さ対策を検討する必要がある
 - 認知度を向上させるためには、来場者のアクセス性について検討する必要がある
 - ファンライドに海外や国内の遠方から参加していただくためには、一定の距離と難易度のあるコースも必要である
- 2つ目、収入増・新たな価値創造について
 - 参加意識を向上させるために、走るだけでなく、応援する楽しみ、支える誇り等多様な参加の仕方があることを周知し、様々な価値観と結び付ける必要がある
 - スポーツだけでなく地域の再生や街づくりといった、生活にある様々な価値観と結び付け、スポンサーを獲得するという循環をつくることが重要
 - 統一的なブランディングをしていくのであれば、両大会の連携の工夫が必要
 - 沿道の主要駅等でのPRイベントは、認知度の向上や大会への理解・協力を繋がる

(2) 7月13日 THE ROAD RACE TOKYO の視察について

- 第1回事業最適化部会における委員の意見を踏まえ、視察項目を下記のとおり整理した
- ポイント①：開催のあり方・都民支持について
 - コース沿道の集客、地域へのメリット及び負担、フィニッシュエリアのイベント、地元
- ボランティアの活動状況、一般参加のコース体験ライドを中心に視察ポイント②：収入増・新たな創造価値について
 - 会場装飾、スポンサーとの連携、映像配信を中心に視察
- ポイント③：費用対効果について
 - 安全対策に係る資機材・スタッフの配置を中心に視察
- 当日はコンボイチーム、マイクロバスチームの2つに分かれて各ポイントをご確認いただきたい

【委員からの意見・質問 なし】

3. 閉会